

「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒を育てる」 特色ある学校づくりを目指して



佐世保市立宮中学校

所在地 佐世保市城間町338番地1

校 長 熊本 直樹

生徒数 53名 学級数 4



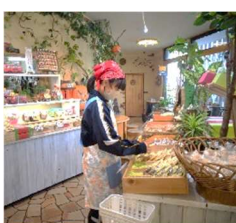
1 目 的

- (1) 本校の学校教育目標である「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育成」を具現化するため、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を実践する。
- (2) 様々な体験活動をととして、生徒信条が示す目指す生徒像「われらは考えて行い、健康で節度があり、最後までやり抜く根性を持ち、思いやりがあり、進んで協力する生徒になろう」を目指す。
- (3) 地域に目を向け、高齢者を含めた地域住民や地域産業の担い手との交流事業に力を入れ、地域連携を推進し『開かれた学校づくり』に努める。

2 実践内容

- (1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える
体験活動の実施

対象学年	2年生
実施時期	10月25日（水）～27日（金）
活動場所	地区内および近隣地区を中心に市内各所の11事業所 ホテルローレイ、ハウステンボス、ジャパネットたかた、ネッツトヨタ、SK-iコーポレーション、村上病院、ル・リアン、シャンプーボーイ、深信幼稚園、昭徳こども園、東消防署
活動内容	事前学習として株式会社フォーオールプロダクト代表の石丸徹郎氏を招いて職業講話をしていただき、各事業所において諸活動を実施した。当日に至るまでに、各事業所に電話連絡を行い、事前訪問を行った。活動後は、それぞれの事業所での学習成果をスライドで作成し、学習発表会を行った。



(2) 高齢化社会に向けた介護・福祉への正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施

対象学年	3年生
実施時期	7月 4日(火) 高齢者・障がい者疑似体験講座 7月 5日(水) 認知症サポーター養成講座 9月27日(水) 福祉のしごと伝道師講話 10月19日(木) 高齢者施設交流(リモート)
活動場所	校内
活動内容	高齢者・障がい者疑似体験では、佐世保市福祉活動プラザから講師を招聘し、介助する・される側の立場を、車椅子を使って体験した。認知症サポーター養成講座ではサンホーム江上より、福祉のしごと基礎講座では、ジャストインケアより講師を招聘し、命の大切さとともに介護の仕事について学んだ。この学習を生かして近隣の高齢者施設と交流し、介護や福祉の実践を行った。
	

(3) 地域の史跡の美化活動や老人会の方との協働作業をととした世代間交流の推進

対象学年	1年生
実施時期	11月2日(木)
活動場所	宮地区史跡・校内
活動内容	宮地区自治協議会、教育会宮支部の協力を得て、宮地区内の史跡学習に加え、元宮中学校校長であり教育委員である松野廣文先生に講話をいただき、学習を深めた。その後、民生児童委員、老人クラブの方と協力しながら、大村純定公、小佐々弾正公、小佐々甚五郎公の墓石の清掃活動を行った。地区の歴史を見聞したり、地域の方々とともに汗を流したりすることで、改めて地域再発見ができ、郷土愛を深めることができた。
	

(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

対象学年	全学年・全保護者
実施時期	6月23日（金）
活動場所	校内
活動内容	長崎県メディア指導員の内海博文氏を招聘し、SNS（ネット）トラブルやゲーム依存、ペアレンタルコントロールのありかたなどを聴講した。メディアとの向き合い方やメディア使用に関する家庭でのルール作りについて、親子で考える機会とすることができた。
対象学年	3年生
実施時期	7月7日（金）
活動場所	校内
活動内容	思春期教室を、佐世保市立看護専門学校の吉田美穂子氏を招聘して行い、望ましい交際や妊娠・出産について講義を受けた。学習を通して、命の大切さとともに、性別に関係なくお互いを尊重する気持ちを育むことができた。
対象学年	全学年
実施時期	12月5日（火）
活動場所	校内
活動内容	薬物乱用防止教室では、納富学校薬剤師を招聘し、禁止薬物の恐ろしさや有害性について説明を受けた。講話通して、薬物の危険性と共に断る勇気についても考えることができた。
	

(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

対象学年	3年生
実施時期	5月12日（金）
活動場所	大刀洗平和記念館
活動内容	修学旅行の3日目に福岡県の大刀洗平和会館を訪問し、語り部の方の話聴き、館内に展示してある大戦中の写真や航空機、特攻隊に関する資料等の見学を行った。同世代の若者が当時どのように考え、どのような思いで生活していたのかを真剣に考えるとともに、平和の大切さを改めて考えることができた。

対象学年	全学年
実施時期	6月29日（木）6.29平和集会 10月13日（金）平和集会（8.9平和集会を延期して実施）
活動場所	宮地区コミュニティセンター・校内
活動内容	6月の平和学習では佐世保空襲についての発表を行った後、元長崎平和大使である山西咲和氏を講師として招聘し、講話やワークショップを行った。平和集会では、途上国支援の一環としてアフリカのファッションブランドを起業した根津朋子氏を招聘して講話をしていただいた。真の意味での平和とは何か、その実現のために自分たちは何ができるかを、生徒どうしが互いに考える機会となった。
対象学年	2年生
実施時期	7月6日（木）
活動場所	原爆資料館、グラバー園、大浦天主堂、永井隆記念館、山王神社
活動内容	長崎原爆資料館を見学し、山川剛氏から被爆体験を聴くことで核兵器や戦争の悲惨さを学び、平和について考えることができた。また、グラバー園、大浦天主堂においては、長崎の歴史と培ってきた文化について学習を深めた。班別研修で得た知識や写真等の記録をもとに動画を作成し、平和へのメッセージとして発信を行った。
対象学年	全学年
実施時期	12月 4日（月）人権学習 18日（月） 人権集会 12月13日（水）ボッチャ体験
活動場所	原爆資料館、グラバー園、大浦天主堂、永井隆記念館、山王神社
活動内容	人権学習では、アイスブレーキングやカルタを通して、世界人権宣言や子どもの権利条約について理解を深めた。ボッチャ体験はボッチャ協会の指導を受け、地元の授産施設も参加してチームを作り、試合を行った。人権集会では人権アンケートの結果をもとに、人々の権利やインクルーシブ社会のあり方について学習を深めた。
	

3 成果

(1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える 体験活動の実施

地区内・近隣地区を中心に 11 か所で実施した職場体験活動では、職業に対する専門的な知識や技術が必要であることを、体験を通して実感することができた。また、保護者や教職員とは異なる大人とコミュニケーションをとることで、学校生活では得ることができないものの見方や考え方を深める良い機会となった。

(2) 高齢化社会に向けた介護・福祉への正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施 講話や体験などを通して、福祉に関するさまざまな知識に加え、命の大切さや尊さ、介護の仕事のやりがいや楽しさを感じることができた。また、生徒自身が地域の抱える高齢化の問題について考え、高齢者を支えるための地域のあるべき姿や、若者が取り組むべき活動を具体的にイメージすることができるようになった。体験を通して積極的に活動しようとする意欲を高めることができたことは大きな成果である。

(3) 地域の史跡等の美化活動など、高齢者との協働作業をとおした世代間交流の推進 地域の高齢者との協働作業を通して、中学生として自分たちができる地域貢献について考えるとともに、生徒一人ひとりの実践力を高めることができた。地域貢献活動では、地域の歴史や文化についての学習を通して、社会科の学習に対する興味関心もさらに高め、地元の貴重な文化遺産の維持・保存に積極的に関わっていかうとする心情を育てることができた。

(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

家庭教育講座では、メディアの課題についても親子が共通の認識を持ち、情報リテラシーを身につける重要性を理解することができた。また、メディアの使用について家庭でのルールづくりについて、家族で話をする良い機会となったという保護者からの感想も多く得られた。思春期教室や薬物乱用防止教室では、自分や他者のいのちを何よりも大切にすること、人としてお互いに相手を尊重する態度、勇気をもって断ることなど、これから社会に出てからも必要なソーシャルスキルについて学ぶことができた。

(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

修学旅行では大刀洗平和記念館を、長崎フィールドワークでは長崎原爆資料館を実際に訪問し、元平和大使や被爆体験者に直接話を聞くことで、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶことができた。人権学習ではボッチャ体験を通してインクルーシブ社会について理解を深めた。また、途上国の支援に携わっている方の話を聞くことで、世界が抱える課題を、身近なこと、自分のこととして再認識することができ、これから自分たちができることを話し合う機会とすることができた。